

特別勘定クォーターレポート

スイス年金

新変額個人年金保険(無配当)

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは、特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の参考値で各特別勘定の運用開始時の値を「100」として指数化したものです。

参考 主な投資対象の投資信託の運用状況(出所:アパディーン投信投資顧問株式会社)

世界バランス・ファンド(適格機関投資家専用)

■ 基準価額の騰落率

	1か月	3か月	6か月	1年	3年
世界バランス・ファンド	0.39%	8.21%	12.95%	17.27%	80.71%

■ 資産別構成比

	ファンド	複合指数 (参考データ)	ベット
株 式	51.07%	50.00%	1.07%
北米地域	32.05%	31.18%	0.87%
欧州(除く英国)	9.08%	8.54%	0.54%
英国	2.99%	3.97%	-0.97%
日本	4.93%	3.99%	0.94%
香港・シンガポール	0.54%	0.88%	-0.34%
豪州・ニュージーランド	1.47%	1.44%	0.03%
債 券	48.43%	50.00%	-1.57%
米ドル圏	17.45%	17.92%	-0.46%
欧州(除く英国)	16.48%	17.44%	-0.96%
英国	3.37%	3.29%	0.09%
日本	11.12%	11.36%	-0.24%
現 預 金	0.50%	0.00%	0.50%
合 計	100.00%	100.00%	0.00%

■ 通貨別構成比

	ファンド	複合指数 (参考データ)
米ドル圏	50.79%	49.32%
ユーロ圏	24.00%	24.10%
イギリスポンド	7.19%	7.25%
豪ドル(含NZD)	2.26%	2.10%
スイス・フラン	1.59%	1.88%
日本円	14.17%	15.35%
合計	100.0%	100.0%

* 複合指数はMSCI Worldインデックスの50%、シティ世界国債インデックスの50%を加重平均した指数

特別勘定の名称	グローバルマーケット型
主な運用対象の投資信託	世界バランス・ファンド (適格機関投資家専用)
投資信託の運用会社	アパディーン投信投資顧問株式会社

ユニット・プライスの騰落率

	1か月	3か月	6か月	1年	3年	設定来
	0.28%	7.57%	11.74%	15.18%	71.78%	61.24%

特別勘定資産内訳

		構成比(%)
現 預 金	・ そ の 他	3.7%
投 資 信 託		96.3%
合 計		100.0%

■ 上位10銘柄

(総組入れ銘柄数 166)

株式	国名	業種	投資比率
CVS HEALTH CORP	アメリカ	生活必需品	2.47%
ROYAL DUTCH SHELL PLC	イギリス	エネルギー	2.10%
ROCHE HLDG AG	スイス	ヘルスケア	2.09%
NOVARTIS AG	スイス	ヘルスケア	1.98%
BRITISH AMERICAN TOBACCO PLC	イギリス	生活必需品	1.96%
ORACLE CORP	アメリカ	情報技術	1.91%
EOG RESOURCES INC	アメリカ	エネルギー	1.83%
JOHNSON & JOHNSON	アメリカ	ヘルスケア	1.70%
PHILIP MORRIS INTL	アメリカ	生活必需品	1.66%
UNITED TECHNOLOGIES CORP	アメリカ	資本財・サービス	1.47%
合計			19.16%

債券	クーポン	償還日	投資比率
アメリカ国債	0.625	2016/11/15	1.70%
アメリカ国債	1.250	2018/10/31	1.55%
オーストラリア国債	6.250	2015/04/15	1.10%
ドイツ国債	4.250	2018/07/04	0.97%
アメリカ国債	3.750	2043/11/15	0.83%
ドイツ国債	1.500	2024/05/15	0.83%
スペイン国債	2.100	2017/04/30	0.80%
スペイン国債	4.800	2024/01/31	0.75%
アメリカ国債	2.750	2023/11/15	0.71%
アメリカ国債	1.000	2019/06/30	0.67%
合計			9.90%

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
※その他、3/3ページの「ご注意いただきたい事項」等を必ずご参照ください。

■運用コメント

市場概況

・日本株式

(10月)世界的な経済成長の減速見通しとエボラ出血熱の感染拡大が懸念される中、値動きの荒い展開となりました。

(11月)米国経済を楽観する見方により先進国の株式市場が上昇する中、大きく円安が進行し、日本の主要株価指数は今年の高値を更新する水準となりました。

(12月)原油価格やロシア通貨・ルーブルの下落など主として外的要因により変動率の高い展開となりました。

・日本債券

(10月)リスク回避の動きの強まり、日銀の予期せぬ追加金融緩和を受けて、国内の長期金利は低下しました。

(11月)海外金利の低下の影響や原油安によるインフレ鈍化見通しなどから、国内の長期金利は一段と低下しました。

(12月)原油安ショックやルーブルの急落などを受けた投資家の質への回避の動きが強まり、国内の長期金利は低下しました。米大手格付け会社のムーディーズ・インベスターズ・サービスは日本の政府債務格付けをAa3からA1に格下げしました。

・外国株式

(10月)ドイツを中心に欧州景気への不安が強まり世界的に株式は下落傾向でしたが、米国は月末にかけての急上昇でプラス圏に戻りました。

(11月)雇用統計にみられる堅調な米国経済と、中国での景気下支えに向けた利下げ等を歓迎し、世界的に大きく上昇しました。

(12月)米国雇用者数が大幅に伸びながらも世界的に原油安への懸念も高まり、先進主要国は総じて小幅な下落となりました。

・外国債券

(10月)米国の量的緩和終了の10月以降も相当期間ゼロ金利が継続される方針等を受け、欧米主要国の国債利回りは低下しました。

(11月)ユーロ圏の7-9月GDP速報値はプラスながらも弱く、ECBが国債買い入れを含む量的緩和を示唆したことで欧米主要国の国債利回りは低下しました。

(12月)米国10年債利回りは2.0%近辺で推移しましたが、欧州主要国ではECBの国債買い入れ期待から利回りは大きく低下しました。

・為替

(10月)月末に日銀の追加金融緩和から円が大きく売られ、月中の円高傾向を超える全面安となりました。

(11月)消費税率引き上げの先送りと衆議院の解散・総選挙を決めた日本の円が、引き続き全面安となりました。

(12月)ギリシャ政局等を懸念したユーロ安の一方で、米ドルの全面高が進行しました。

運用概況

・今四半期(2014年10月~12月)のファンドのパフォーマンスは、基準価額ベースで+8.21%となりました。月別に見ると10月が-0.09%、11月が+7.89%、12月が+0.39%となります。株式および債券は上昇、通貨も円安の影響を受けて大幅なプラスとなり、基準価額は上昇しました。

・今四半期のパフォーマンスは、ベンチマークを下回りました。その主なマイナス要因となった銘柄選択効果は、株式部門では北米で市場の上昇にファンドがやや遅れ、欧州及び英国では下落し、債券部門では、デュレーションをベンチマーク対比で低めにしてきた日本が引き続きマイナスとなりました。資産および地域配分効果において、株式と債券の比率は中立を保ち、株式部門では地域配分においてブラジル等を含む新興国市場への投資がマイナスになりました。為替は、米ドルへのオーバーウェイトはプラスでしたが、全般に中立の配分となったのでパフォーマンスへの寄与は限定的でした。

・今四半期の資産配分については、期初から僅かに株式のオーバーウェイト、債券のアンダーウェイトを基準とし、期中での変更はありませんでした。株式については、期初における欧米地域をアンダーウェイトし、アジア地域をオーバーウェイトする方針から、期中においては個別の国や地域ごとに北米、欧州(除く英国)、日本をオーバーウェイト、英国やアジアをアンダーウェイトに変更しました。新興国市場にも引き続き投資しています。債券については、期初には国内外で中立的な配分としましたが、期中に欧州(除く英国)をアンダーウェイトしました。為替に関しては、期初には全般に中立としたのを、期中において僅かに米ドルをオーバーウェイト、円をアンダーウェイトへ推移させています。

運用方針

・米国など一部の株式市場が最高値圏で推移しているものの、世界的に景気見通しがやや改善傾向となり、超金融緩和の解除への思惑が台頭していることなどから、引き続きわずかに株式をオーバーウェイト、債券をアンダーウェイトする予定です。

・株式については、北米、欧州(除く英国)、日本をオーバーウェイトする一方、景気の先行き不透明感から英国やアジアをアンダーウェイトする方針です。

・債券については、日本を現預金相当分でアンダーウェイトするとともに、過去最低利回りが更新されている欧州(除く英国)をアンダーウェイトする方針です。

・為替に関しては、全般に中立とする中、僅かに米ドルをオーバーウェイト、円をアンダーウェイトする予定です。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
※その他、3/3ページの「ご注意いただきたい事項」等を必ずご参照ください。

当資料はアクサ生命が新変額個人年金保険「スイス年金」の特別勘定について運用状況などを報告する資料です

ご注意いただきたい事項

▲ 投資リスクについて

この保険の据置（運用）期間中の運用は特別勘定で行なわれます。特別勘定資産の運用実績に基づいて年金額、死亡給付金額および解約払戻金額等が変動（増減）します。特別勘定資産の運用は、株式および公社債等の価格変動と為替変動等に伴う投資リスクがあり、運用実績によってはお受け取りになる年金額や解約払戻金額の合計額が一時払保険料を下回ることがあります。これらのリスクはすべてご契約者に帰属します。

▲ 元本欠損が生じる場合があります

解約の時期、被保険者の契約年齢等の諸条件により、ご契約者等が受け取る金額の合計額が、お払込保険料の合計額を下回る場合もあります。保険会社の業務または財産の状況の変化により、年金額、死亡給付金額、解約払戻金額等が削減されることがあります。

▲ 諸費用について

契約初期費	一時払保険料に対して 5.0% を特別勘定繰入前に控除します。
保険関係費	特別勘定の資産総額に対して（ 年率0.75%+運用実績に応じた費用（※） ）/365日を毎日控除します。 ※運用実績に応じた費用：運用実績を毎日判定し、実績が 年率1.5%を超過した場合のみ、超過分1%あたり0.1%（上限1.25%） を控除します。
年金管理費	年金支払開始日以後、支払年金額の 1% を年金支払日に控除します。
資産運用関係費	グローバルマーケット型 年率0.7344%程度

資産運用関係費は将来変更されることがあります。

その他お客さまにご負担いただく手数料には、信託事務の諸費用等、有価証券の売買委託手数料および消費税等の税金がかかりますが、費用の発生前に金額や割合を確定することが困難なため表示することができません。また、これらの費用は各特別勘定がその保有資産から負担するため、基準価額に反映することとなります。したがって、お客さまはこれらの費用を間接的に負担することとなります。

その他ご注意いただきたい事項

- 当資料は、特別勘定の主な投資対象である投資信託の勧誘を目的としたものではありません。
- 新変額個人年金保険「スイス年金」は、生命保険商品であり投資信託ではありません。また、ご契約者様が直接投資信託を保有されている訳ではありません。
- 新変額個人年金には複数の特別勘定グループが設定されており、「スイス年金」には「特別勘定グループ（TS型）」が設定されています。保険料繰り入れおよび積立金の移転は「特別勘定グループ（TS型）」に属する特別勘定に限定されます。「特別勘定グループ（TS型）」以外の特別勘定グループに属する特別勘定への保険料の繰り入れおよび積立金の移転はできません。
- 特別勘定および特別勘定の主な運用対象となる投資信託の内容が変更されることがあります。
- 特別勘定資産の運用実績は、特別勘定が主な投資対象とする投資信託の運用実績とは異なり、一致するものではありません。これは、特別勘定は投資信託のほかに、保険契約の異動等に備えて一定の現預金等を保有していることや、積立金の計算にあたり投資信託の値動きには反映されていない保険にかかる費用等を特別勘定資産から控除していることなどによるものです。
- ユニット・プライスとは、特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の参考値で、各特別勘定の運用開始時の値を「100」として指数化したものです。

新変額個人年金保険（無配当）「スイス年金」は現在販売しておりません。

【募集代理店】

株式会社東京スター銀行



東京スター銀行

0120-330-655

（平日 9:00～21:00 土日祝 9:00～17:00 年末・年始を除く）

ホームページ / <http://www.tokyostarbank.co.jp>

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3

TEL 0120-933-399

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>